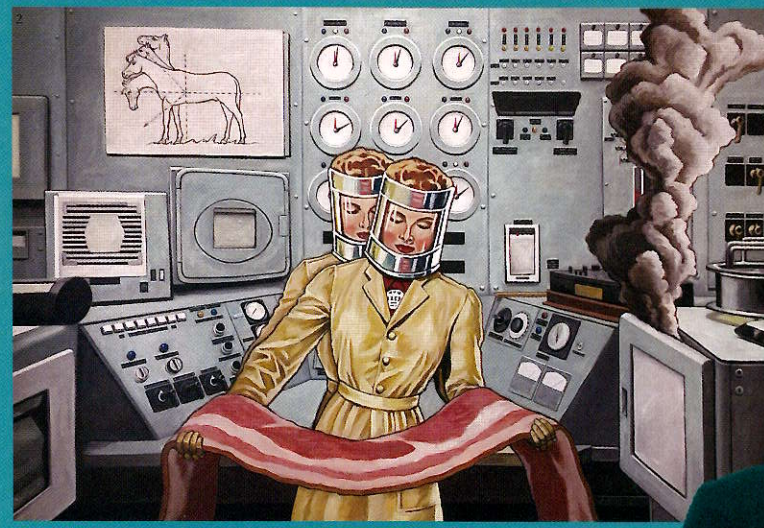


開館30周年記念プレ企画

福沢一郎×平川恒太・ユアサエボン・江上越

《会場》富岡市立美術博物館・福沢一郎記念美術館



2024年
8.10^土 / **10.28^月** OPEN. 9:30~17:00
入館は16:30まで

月曜休館 ※8月12日、9月16日、9月23日、10月14日は開館し、翌火曜日休館。10月28日は群馬県民の日のため開館。

《観覧料》一般700円／大学・高校生350円／中学生以下無料

*20名以上の団体は2割引 *ぐーちよきサポート(子育て応援)の提示で2割引
*身体障害者手帳・療育手帳または精神障害者保健福祉手帳をお持ちの方及びその介助者1名は無料
*半券提示で2回目以降半額(観覧券1枚につき1名) *割引サービスの重複はできません。
*10月28日(月)は群馬県民の日のため無料

《主催》富岡市(富岡市立美術博物館・福沢一郎記念美術館)
《助成》公益財団法人朝日新聞文化財団



1. 平川恒太《森の茶会-四季図》2020年 作家蔵
2. ユアサエボン《女性工員No1》2016年 作家蔵
3. 江上越《日本近代美術事件簿-旗袍への思惑(部分)》2024年 作家蔵

当館は、富岡市出身の画家・福沢一郎(1898~1992)の画業を顕彰する記念美術館を併設して平成7(1995)年に開館し、令和7(2025)年に開館30周年を迎えます。

これを記念して、福沢一郎と新進気鋭の若手作家3名のコラボレーション展を開催します。平川恒太、ユアサエボシ、江上越は、いずれも現代の絵画表現において独自の世界を切り開き、次世代のアートシーンを担う存在として近年大きな注目を集めると同時に、それぞれの視点から福沢の作品や活動、彼が生きた時代に関心を寄せ、自らの制作に生かしています。

福沢の没後30年以上が過ぎた今、生前の彼を知らない若い世代の作家たちは、福沢の遺した仕事の中に何を見ているのでしょうか。本展では3つの個展形式で、それぞれの最新作を含む作品と当館所蔵の福沢作品を紹介します。時代を超えて響き合う絵画の世界をどうぞ楽しみみてください。

関連企画

8.17 13:00-15:45

出品作家によるクロストーク+ギャラリートーク

登壇者/平川恒太、ユアサエボシ、江上越、伊藤佳之(福沢一郎記念館)
会場/2階ロビー・展示室 参加費無料、申込不要(要観覧券)

福沢一郎記念館の伊藤佳之氏をゲストに迎え、3名の作家が自身の制作と福沢一郎について語ります。クロストーク終了後は各作家によるギャラリートークを行います。

8.18 13:30-15:00

江上越ワークショップ「伝わるかな？」

講師/江上越 会場/2階展示室
参加費無料、3歳以上対象(定員20名)

作家の制作テーマであるミスコミュニケーションをテーマに、共通認識とは何か、伝達する過程での差異について考えます。

9.21 13:30-15:30

平川恒太ワークショップ「平和画を描こう」

講師/平川恒太 会場/1階創作室
参加費無料、小学4年生以上対象(定員12名)

作家の制作テーマのひとつである「戦争画」について学んだあと、対となる「平和画」を描きます。



ワークショップの申し込みはオンラインで!

8月3日(土)9:30から受け付けます。

先着順、定員に達し次第締め切りとなります。

10.5 14:00-

学芸員によるギャラリートーク

会場/2階展示室
参加費無料、申込不要(要観覧券)

福沢一郎 × 平川恒太・ユアサエボシ・江上越

開館30周年記念プレ企画



平川恒太
ひらかわ こうた

1987年高知県生まれ。2011年多摩美術大学美術学部絵画学科油画専攻卒業。2013年東京藝術大学大学院美術研究科修士課程絵画専攻修了。多摩美術大学在学中に福沢一郎賞を受賞して以降、福沢の画業に注目し、オマージュ作品も制作。歴史的な事件や古今東西の美術・文学に学び、そのイメージを現代の社会に照らして制作を行う。主な展覧会に「カラストロフと美術の力」(森美術館・東京、2018年)、「平川恒太-Cemetery 祈りのケイショウ」(高知県立美術館、2022年)など。



ユアサエボシ
ゆあさ えぼし

ユアサエボシ(経歴)2019年 作家展

1983年千葉県生まれ。2005年東洋大学経済学部卒業後、商品先物取引会社に就職するも半年で産産、一転して画家になる決心をする。2008年東洋美術学校絵画科卒業。福沢が戦前に開設した絵画研究所に通い、シュルレアリスムに影響を受けたという設定の大正生まれの架空の三流画家に「擬態」して制作・発表を行う。主な展覧会に「高松コンテンポラリーアート・アニュアル vol.10 ここに境界線はない。/?」(高松市美術館、2021年)、「VOCA展2022 現代美術の展望-新しい平面の作家たち」(上野の森美術館・東京、2022年)など。



江上越
えがみ えつ

1994年千葉県生まれ。2022年中央美術学院(北京)博士課程修了。2017年カールスルーエ造形大学(ドイツ)に留学。2020年文化庁新進芸術家海外派遣により渡米。2021年「Forbes Asia」が選ぶ世界を変える30歳未満の30人」受賞。「東洋的な油絵」の探求やミスコミュニケーションをテーマに制作、国際的に活躍する。主な展覧会に「VOCA展2020」(上野の森美術館・東京、2020年)、「エントランス・ギャラリーvol.1 江上越」(千葉市美術館、2020年)、「Collection visit with Sam and Rachel Shikar」(グッゲンハイム美術館企画プログラム、ニューヨーク、2021年)、「Oriental Mystery」(HOW Art Museum・上海、2023年)など。

平川恒太(Tenta) Comartrons on Saipan Island Remian Rahfui to the End 2013年 富岡市美術館蔵 ※参考作品

江上越(日本近代美術事件簿 旗袍の恩恵)2024年 作家展

Tomioka city museum
Fukuzawa Ichiro memorial gallery

富岡市立美術館・福沢一郎記念美術館
〒370-2344 群馬県富岡市黒川351番地1
TEL.0274-62-6200/FAX.0274-62-6201 E-mail:bjijyutu@city.tomioka.lg.jp
https://www.city.tomioka.lg.jp

SNSでも情報発信中!



○上信越自動車道富岡ICまたは下仁田ICから車で15分
○上信越上州富岡駅からタクシーまたは集合タクシー「愛タク」で10分
(ご利用には電話(0274-63-8500)またはスマートフォンアプリ等で事前予約が必要です。詳細は富岡市HPをご覧ください)
○JR信越線碓氷駅からタクシーで10分

